

3 級火薬庫「保安検査」事前調査票

作成者職・氏名 _____

連絡先電話番号 _____

事業所名		代表者職・氏名		
事業所所在地				
電話番号		ファックス番号		
取扱保安責任者	資格	正 (甲 ・ 乙)	副 (甲 ・ 乙)	
	氏名			
3 級火薬類の所在地				
3 級火薬庫	許可火薬類の種類	許可貯蔵量 kg	定期自主検査実施	
号棟			年度	
号棟			第 1 回 年 月 日	
号棟			第 2 回 年 月 日	
号棟				
第 1 種保安物件名	第 2 種保安物件名	第 3 種保安物件名	第 4 種保安物件名	
法定保安距離 メートル	法定保安距離 メートル	法定保安距離 メートル	法定保安距離 メートル	
申請書面保安距離 メートル	申請書面保安距離 メートル	申請書面保安距離 メートル	申請書面保安距離 メートル	
実測保安距離 メートル	実測保安距離 メートル	実測保安距離 メートル	実測保安距離 メートル	
検査項目	省令等	検査基準	判定基準	自己点検結果
壁厚	規則 2 7 条 1 項 1 号	鉄筋コンクリート造の場合、20 釐以上、補強コンクリートブロック造の場合は 30 釐以上。前面の壁は厚さ 10 釐以下の無筋コンクリート造とする。	ひび割れ、風化等がないこと。	適 ・ 否
扉	規則 2 4 条 4 号	火薬庫の入口の扉は、外扉が耐火扉である二重扉とし、盗難を防止するための措置を講ずること。	外扉は厚さ 3 mm 以上の鉄板とすること。 内扉、外扉及び外扉の錠は、日本産業規格 K4832 (2018) 火薬類の盗難防止設備の要求事項の各基準に適合すること。 内扉及び外扉はそれぞれ錠を使用すること。	適 ・ 否
検査項目	省令等	検査基準	判定基準	自己点検結果
窓	同 2 4 条 5 号	窓を設ける場合は、地上から 1.7 釐の高さ、直径 1 釐以上の鉄棒を 10 釐以下間隔ではめ込む。内方に不透明のガラス引戸、外方に外から容易に開かない防火扉とする。	窓ガラス、防火扉の破損がないこと。	該当無し 適 ・ 否
床 通気孔	同 2 4 条 6 号	床高は地盤面から 30 釐以上。床に 3 個以上の通気孔を設け、金網を張る。(幅 20 釐以上の通気孔には約 5 釐間隔で直径 1 釐以上の鉄棒を	床面の破損がないこと。 通気孔の金網破損がないこと。	適 ・ 否

		はめ込む。)		
床面	同 2 4 条 7 号	床面は板張りで鉄類を表さない。	床板の割れ、釘の浮きがないこと。	適 ・ 否
換気孔	同 2 4 条 8 号	金網張り、火薬庫の大きさにより天井に1個以上、両つまに各1個付ける。	換気孔の金網の破損がないこと。	適 ・ 否
暖房	同 2 4 条 9 号	暖房の設備を設けた場合は温水以外のものは使用しない。	温水以外の熱源を使用していないこと。	該当無し 適 ・ 否
照明	同 2 4 条 1 0 号	照明を設けた場合は防爆式電灯、配線は金属線ビ工事、金属管工事、がい装ケーブル工事とする。自動遮断器、開閉器は庫外に設置する。	防爆式電灯であること。 スイッチ等は庫外にあること。	該当無し 適 ・ 否
屋根	同 2 7 条 1 項 2 号	小屋組は木造とし、屋根は鉄網セメントモルタル仕上げ等耐火性であって爆発の際軽量飛散物となるような建築材料とする。	雨といの破損、詰まりがないこと。 雨もりがないこと。	適 ・ 否
検査項目	省令等	検査基準	判定基準	自己点検結果
警戒・ 消火設備	同 2 7 条 1 項 4 号	入口は、付近の保安物件に対し、危険の虞のない側に設け、かつ、火薬庫の外側に注水しうる設備を設ける。	空地に燃えやすいものが堆積していないこと。十分な消火用水と消火用器具は整然と用意されていること。	適 ・ 否
盗難防止 措置	同 2 4 条 1 5 号	天井裏又は屋根には、盗難を防止するための措置を講ずること。	日本産業規格 K4832 (2018) 火薬類の盗難防止設備の要求事項 3.3 火薬庫の天井裏又は屋根に張る金網の基準に適合していること。	適 ・ 否
警鳴装置	同 2 4 条 1 6 号	警鳴装置を設置する。(見張り人を常時配置した場合はこの限りでない。)	日本産業規格 K4832 (2018) 火薬類の盗難防止設備の要求事項 3.4 火薬庫及び庫外貯蔵所に用いる自動警報装置の基準に適合する警鳴装置を設置すること。	適 ・ 否
土堤 簡易土堤	同 2 7 条 1 項 5 号	周囲は、土堤又は簡易土堤で囲む	規則 3 1 条の土堤に適合すること。 規則 3 1 条の 2 の簡易土堤に適合すること。	適 ・ 否

◆土堤の場合

検査項目	省令等	検査基準	判定基準	自己点検結果
位置	同 3 1 条 1 号	土堤の内壁の堤脚から棟の外壁まで1m以上の距離においてできるだけ接近して構築する。	堤脚と外壁との間の距離を確認すること。	適 ・ 否

出入口	同 3 1 条 2 号	切通しによる出入口の場合は、平面図において棟の本屋から外方に引いたすべての直線が土堤の頂上の線と交さずする。	当該工室又は火薬庫等が見通して見えないこと。	適 ・ 否
	同 3 1 条 3 号	トンネルによる出入口の場合は、平面図において棟の外壁からトンネルの方に引いたすべての直線がトンネルの壁の線と交さずする。	当該工室又は火薬庫等が見通して見えないこと。	適 ・ 否
検査項目	省令等	検査基準	判定基準	自己点検結果
勾配等	同 3 1 条 4 号	土堤は 4 5 度以下の勾配とする。 高さは煙火火薬庫の場合は軒高(1.5 未満の場合は 1.5)、その他の火薬庫及び一時置場にあつては屋頂の高さ以上とする。 頂部の厚さは 1 以上とする。	構造が許可を受けずに変更されていないこと。	適 ・ 否
土留め	同 3 1 条 5 号	土堤の堤脚をやむを得ず土留めするときは、土堤の高さの 1 / 3 以下とする。 内面の土留めの材料は、爆発の際、軽量の飛散物となるものを使用(煙火火薬庫の場合は除く)。	土留めの腐朽等がないこと。 木材、プラスチック剤、軽量骨材を使用したものであること。	適 ・ 否
通路	同 3 1 条 6 号	2 棟以上が隣接し、中間土堤を兼用する場合は、この土堤に通路を設けない。	構造が許可を受けずに変更されていないこと。	適 ・ 否
土堤面	同 3 1 条 7 号	土堤面に芝草類又はセメントモルタルで被覆する。	芝草が剥けていないこと。 枯草がないこと。	適 ・ 否

◆簡易土堤の場合

検査項目	省令等	検査基準	判定基準	自己点検結果
位置	同 3 1 条 1 号	土堤の内壁の堤脚から棟の外壁まで 1 以上の距離においてできるだけ接近して構築する。	堤脚と外壁との間の距離を確認すること。	適 ・ 否
出入口	同 3 1 条 2 号	切通しによる出入口の場合は、平面図において棟の本屋から外方に引いたすべての直線が土堤の頂上の線と交さずする。	当該工室又は火薬庫等が見通して見えないこと。	適 ・ 否
	同 3 1 条 3 号	トンネルによる出入口の場合は、平面図において棟の外壁か	当該工室又は火薬庫等が見通して見えないこと。	適 ・ 否

		らトンネルの方に引いたすべての直線がトンネルの壁の線と交さずする。		
勾配等	同 3 1 条の 2 1号	土堤の勾配は75度以下とする。 土堤の高さは、軒までの高さ(1.5m未満の場合は1.5m)以上とする。 頂部の厚さは60cm以上とする。	構造が許可を受けずに変更されていないこと。	適 ・ 否
土留め	同 3 1 条の 2 2号	爆発の際、軽量の飛散物となる側壁板及び支柱を用いて堅固な土留めとする。	土堤内の土、砂が十分に満たされていること。 土圧により、板が破損していないこと。 材料は木材、プラスチック材、軽量骨材を用いたセメント板であること。	適 ・ 否
通路	同 3 1 条6号	2棟以上が隣接し、中間土堤を兼用する場合は、この土堤に通路を設けない。	構造が許可を受けずに変更されていないこと。	適 ・ 否
土堤頂部	同 3 1 条の 2 3号	頂部は板等で覆い、できるだけ雨水が浸入しない構造とする。	板の乾燥により、隙間が大きくなっていないこと。	適 ・ 否